

-
- ことばへのイメージ
- メディア接触による言語への影響
- 携帯メールによる使用言語への影響
- 方言の場面差・属性差②
- 方言の場面差・属性差①
- 方言を話す人々の意識
- 訪問された際のあいさつ
- 個人商店でのあいさつ
- 気づかない方言②
- 気づかない方言①
- はじめに
- トッポ



1 メディア接触による言語への影響

文字サイズ変更 小 中 大

国文学科2年 斉木春香

メディア接触による言語への影響

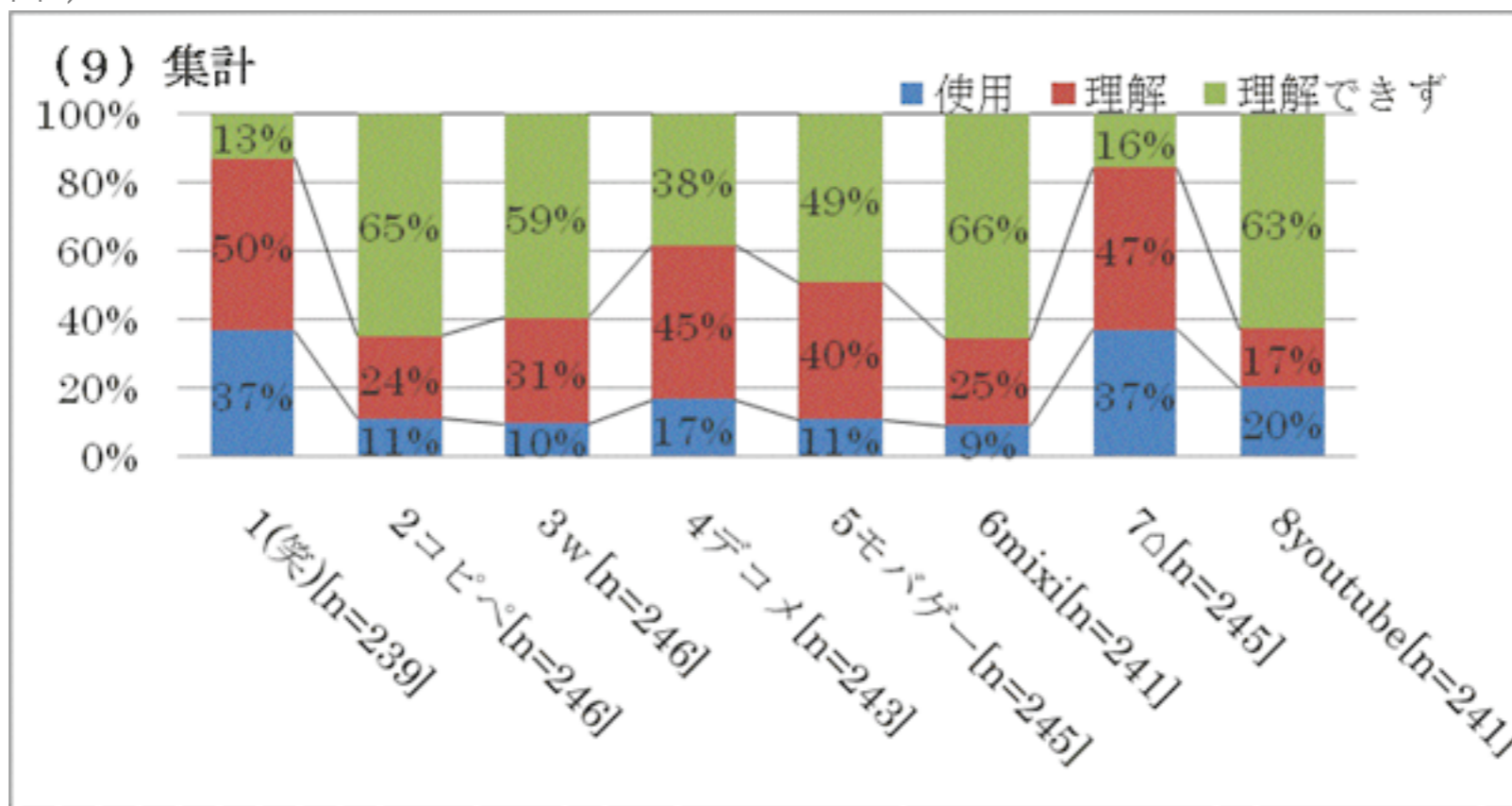
1.調査の目的、内容

新しいメディアであるインターネットやメールによる、言語への影響を調べる。アンケートでの15番を使用、インターネットやメールの使用についての質問と、インターネットやメールを使用していないとわからない言葉(=インターネットスラング)について聞く。

2.調査報告

(9)のインターネットスラングについて聞いた質問についての集計である。

図1)



例文中の言葉についての理解、使用について聞いたものである。(笑)、コピペ、w、デコメ、モバゲー、mixi、youtubeという8つの言葉について、使用するし意味がわかる(使用)、使用しないが意味はわかる(理解)、使用しないし意味もわからない(理解できず)から選んでもらった。表では()内のように表記している。

図2)

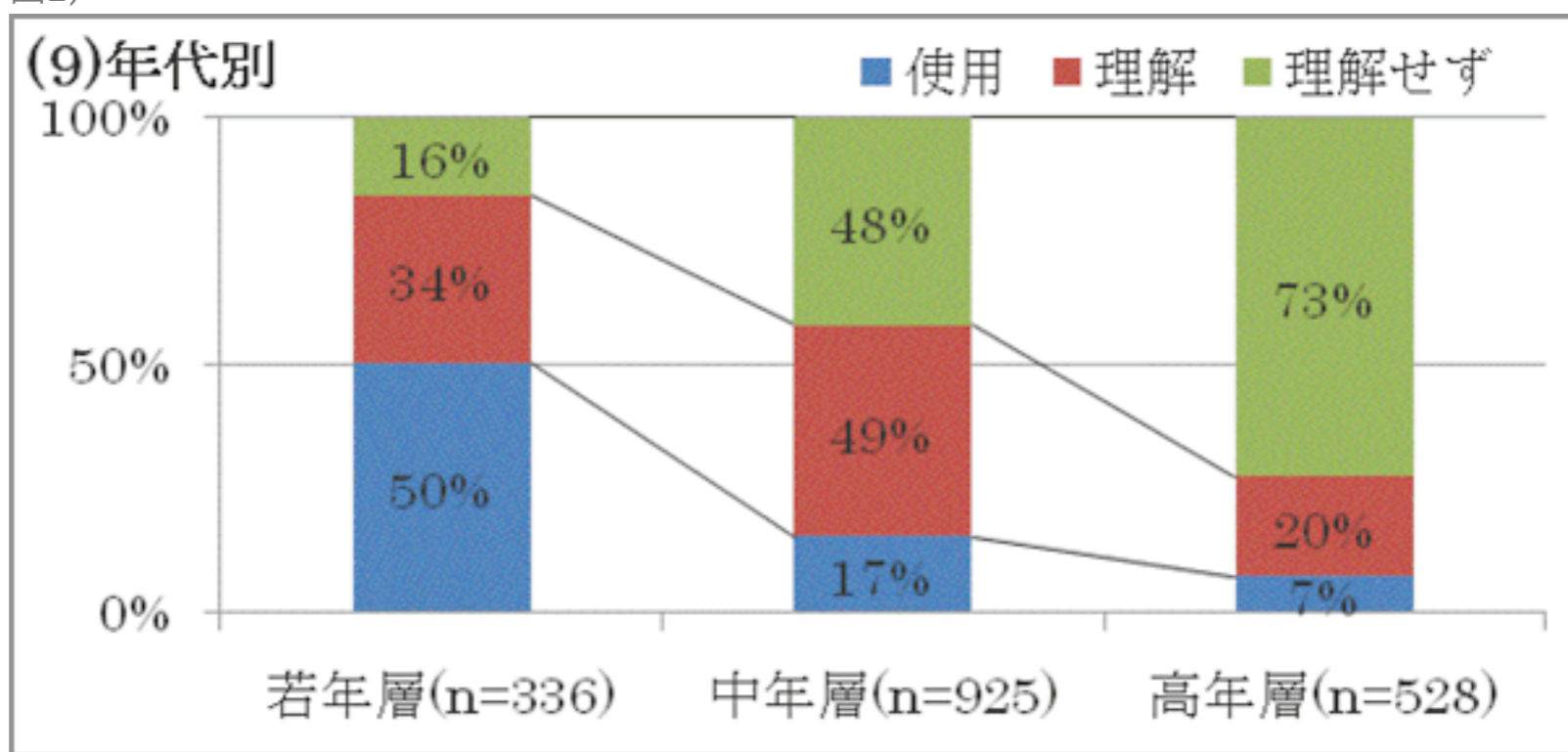


図2は、1~8全ての質問をまとめ、使用、理解、理解せずの数を年代別に集計したものである。これを見ると、若年層→中年層→高年層と理解、使用の値が低くなっていくのがわかる。使用だけ見ても、若年層は半分の人が(9)の言葉を使用している。それに比べ、中年層と高年層の使用の割合は非常に少ない。よって、若年層はインターネットやメールなどの言語への影響を受けやすいと言える。

図3)・図4)

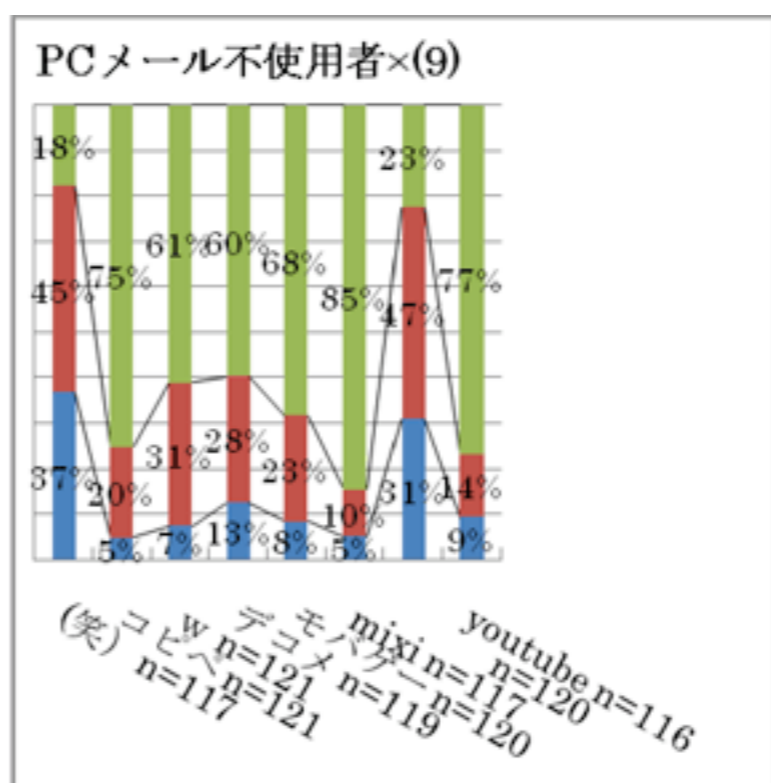
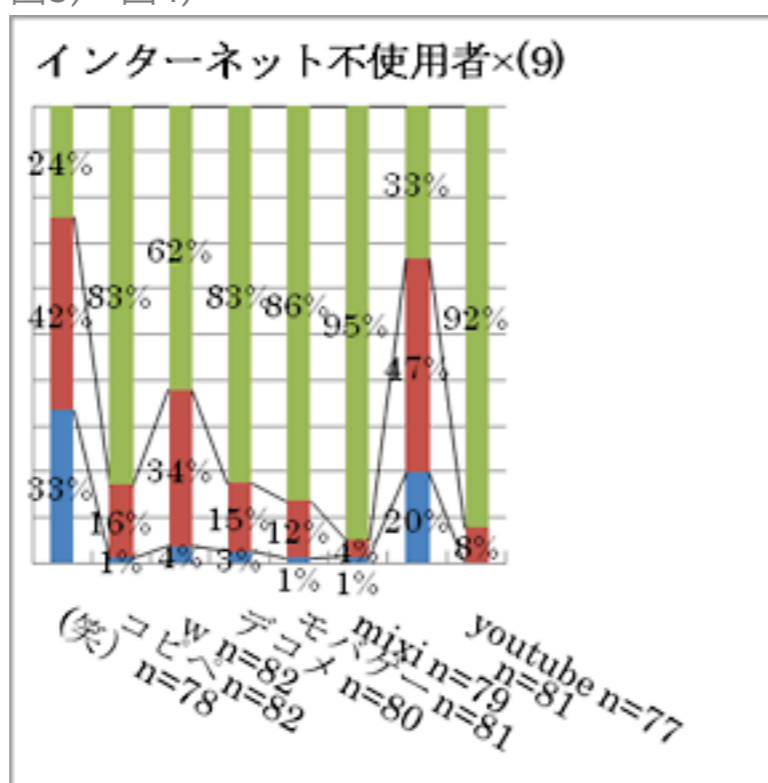


図5)

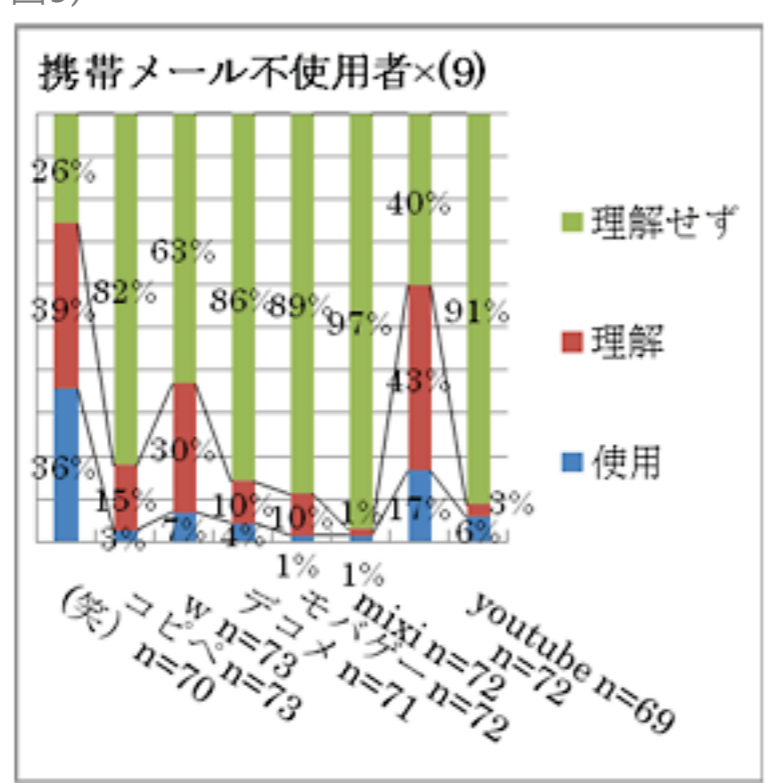


図3~5はアンケート(1)~(3)でインターネット、パソコンメール、携帯メールを全く利用しないと答えた人が、(9)でどの回答をしたかを示したものである。パソコンメールを利用しない人と比べ、インターネット、携帯メールを利用しない人は理解が全体的に低く、使用もきわめて低い。このことから、メディアから言語への影響はパソコンメールからの影響よりも、インターネット、携帯メールからのものが大きいと考えられる。